

赤ちゃんをなかなか授からない。相談や治療はいつ、どのような形でしたらいいのだろうか。「妊娠を望んでいるカップルの疑問にお答えします」をテーマにした「第六回山陽新聞医療セミナー」が岡山市奈遷町の岡山国際交流センターで開かれ、医師ら専門家が最新の不妊治療や栄養管理、心理的なケアまで幅広く紹介した。

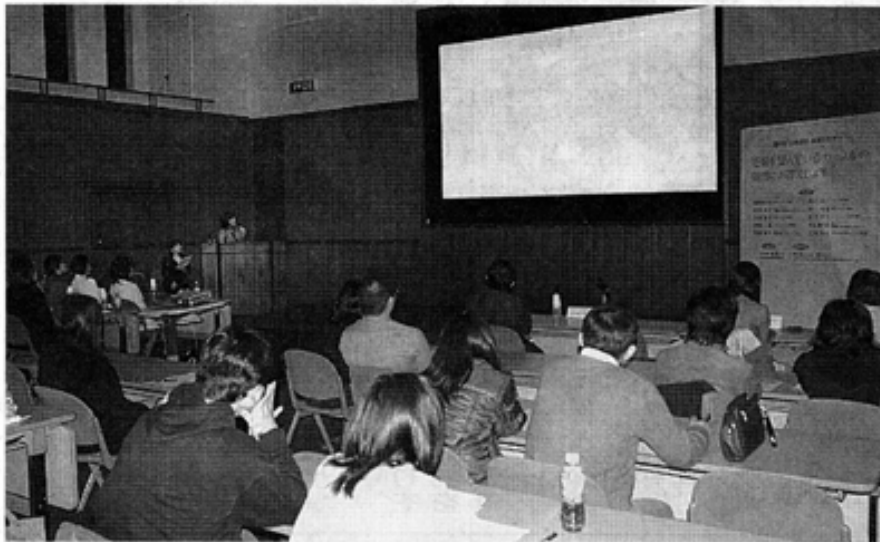
不妊テーマ 岡山で山陽新聞医療セミナー

事前に寄せられた質問に、岡山二人クリニック(岡山市津高)のスタッフら十二人がそれぞれの専門的立場から答え

た。不妊の原因には病気や性感染症などもあるので自己診断は禁物。受診するタイミングとして、同クリニックの吉岡奈々子医師は「避妊していない状態で一年以上、基礎体温表でタイミングをとって四周期以上などの人」とした。

不妊治療の検査はさまざま。排卵が近づくとき大量に放出される黄体化ホルモン(LH)を調べる尿中LH検査は、排卵のタイミングを知るのに信頼度が高い。まれなケースとして女性側に精子をアロックスする抗体ができる場合もあり、抗体検査をして陽性か陰性かを調べる方法も

悩み一人で抱えないで



精↓体外受精」と負担 また、負担を減らす方の少ない治療から段階的に進めることを説明した。国の特定不妊治療費助成事業は現在、一年度あたり十万円限度で通算

排卵のタイミングに合わせ精液を子宮内に注入する人工授精、卵子と精子を体外に取り出し一回十数万円で二回までして受精させて戻す体外受精。ともに、妊娠する可能性を上げるメリットは大きい。保険適応に広がることを紹介した。治療につなげる入り口も重要。二〇〇四年から岡山大病院内に開設され、無料で相談を受けている「岡山県不妊専門相談センター」。江見弥生相談員は、不妊治療が周囲に相談しにく

不妊治療や相談体制などを紹介した山陽新聞医療セミナー

子不妊カウンセラーは、子宮卵管造影検査や性交後検査、精液検査などの検査が保険適応で三割負担で済むことを紹介。保険外の費用は施設によってまちまちだが、平均して不妊治療にかかる費用は人工授精で「話し相手がいなかったり、気持ちコントロールできない時は気軽に

最新治療や相談体制紹介

ある。しかし、検査をしても原因が見つからない場合、検査をしてもクの羽原俊宏医師は、で三十万〜五十万円とい呼び掛けた。